



2023年3月15日

第692号

1部10円(組合員は組合費に含む)
郵便振替00960-7-111274

Tel (06)4793-0633 Fax (06)4793-0644 E-mail: info@ewaosaka.org http://www.ewaosaka.org

発行 大阪教育合同労働組合
Education Workers and Amalgamated Union Osaka (EWA)
発行人 増田 俊道
連絡先 大阪市中央区北浜東1-17 8F

ウイザス事件 府労委関与により和解成立!

ウイザスの不当労働行為（団体交渉拒否、組合への不当介入等）について、大阪府労働委員会（府労委）で争われていた争議が、株式会社ウイザスが組合側の要求を受け入れることで、3月6日、和解が成立しました。

そもそもその発端は、2021年、ウイザス（第一ゼミナール、ファロス）が、労働環境の改善を求めて36協定の協議を求めていた組合員との協議を行わずに、しかも組合との協議中であった変形労働時間制を密かに導入していた職場への転勤を命じたことでした。組合は団体交渉を要求しましたがウイザスはこれを拒否、さらに残業が必須の職場で残業禁止を命じました。そのため、

府労委での争議へと発展しました（2021年（不）40号事件）。また、組合の指摘する季節講習会時の長時間労働の是正をすることなく、組合の反対してきた変形労働時間制を導入しました。組合は団体交渉を要求しましたが、これも拒否しました（2021年（不）66号）。その後、同じ組合員に転勤させた教室を1年で閉校、明らかに労働条件の変更があるにも関わらず、ここでも団体交渉を拒否しました（2022年（不）5号事件）。

このうち、最後の事件に関しては、2022年11月に府労委から、不当労働行為を認定され、ウイザスは組合に対する謝罪を文書により命令されました。継続して争われて

いた先の2つの事件について、先日、組合からの要求をウイザスが認める形で、府労委関与による和解が成立しました。ウイザスは、組合に対して遺憾の意を示し、労働条件の変更について団体交渉の申入れがあった時には、誠実に対応し、速やかに協議を行うことを約束しました。今回の一連の争議は、ウイザスが最初から、組合を軽視、強硬な姿勢を取ったことがそもそもの原因でした。そのため、今後の正常な労使関係を構築するためには、組合員の労働条件、賃金だけでなく、賞与や移動時間、職場環境など、労働者を取り巻くあらゆる「労働条件」の変更がある場合は、組合と協議をすることをウイザスに「約束」させる必要があ

りました。そして今回、組合との協定という意味だけでなく、府労委関与により、和解協定の締結を行い和解することができました。

15回におよぶ府労委での調査、それにともなう準備書面や証拠の準備など、相当な労力がかかりましたが、それに見合う結果を組合は獲得することができました。しかし、失われていた労使間の信頼関係がようやく原点に立ち返ったところであり、2年に渡って中断していた労働環境の改善に向けてようやくスタートラインに立つことが出来たという状況、と考えています。

蓑田智洋（ウイザス支部代表）

大阪市のインクルーシブ教育のゆくえ パートII

3月3日、前回の12月に引き続き、2回目の大阪市教委のインクルーシブ教育についての考え方の話し合いの場を持ちました。

今までと変更はない

昨年4月27日付の文科省通知の「特別支援学級に在籍している児童生徒は原則、週の授業時間数の半分以上を目安に特別支援学級で児童生徒の一人ひとりの障がいの状態や特性および心身の発達の段階に応じた授業を行うこと。」という一文に対して市教委はどう考えているのかと問うと、「これまで通り、一人ひとりの児童生徒のニーズにあった

文科省通知にゆれる教育現場大阪の教育はどうなるのか？

支援、共に学び、共に育つ教育を進めていきたい。現状の特別支援教育の内容を変更しようとは考えていない。」と回答しました。自立活動がしっかりされていればこれまで通り特別支援活動に大きな変更がないということを確認しました。

学びの場として通級は増やしていきたい

また、「通級学級」についても、文科省は支援学級とは別に通級学級を増やしていく方針だが大阪市の考えを聞くと、具体的な数字は現時点で

ははっきり答えられないが必要に応じて拡充していきたいとの事でした。通級学級に通う児童生徒は原学級となり、週8時間以内と定められており、主に言語障害や自閉症スペクトラムなどの発達障害を対象としており、教科学習より自立活動を中心に概ね原学級での学びが中心になるようです。

いずれにしても保護者の不安をなくし、子どもの権利として様々な個性ある児童生徒が同じクラスで学び合えるインクルーシブ教育を変えることがないがないということを

再確認しました。

（書記次長 山口昌孝）

当面の日程

- 3月21日（火）関電包囲大集会
関電本店-高浜原発 リレーデモスタート！
13:00 関電本店前 14:30～デモ
3/22 10:00 新大阪駅13:30 JR吹田駅
3/23 10:00 茨木市役所前 デモスタート
老朽原発動かすな！実行委員会
- 3月21日（火）狭山事件再審を実現しよう市民のつどい in 関西
13:00 西成区民センター 終了後パレード
- 3月24日（金）15:00 府労委前
春闘総行動 10:00 泉の広場集合
- 4月6日（木）新阿波座公園
18:30 集会開始（本町駅下車）
18:30 デモ 戦争あかんロックアクション

全労協

3月5日、広島アステールプラザにおいて、3年ぶりの西日本討論集会が開催されました。46名が参加して、全労協の春闘方針を確認するとともに、お互いの闘争経験をもちよることで方針を具体化するための討論がされました。大阪全労協、ユニオン北九州、徳山全労協、広島県労協など各地の報告があり、大阪全労協からは、竹林事務局長の全般的な報告の後、教育合同とケアワーカーズユニオンがそれぞれ報告しました。教育合同からは、会計年度任用職員制度の問題点と大阪府事件の経過、公立の教員が給特法に

23春闘西日本討論集会

よって「定額働き放題」になっていることと、私学の非正規教員が「使い捨ての駒」にされている実態などを報告しました。

課題を明確にして闘おう！

各地の報告の中では、外国人労働者や技能実習生に対するハラスメントや暴力、そして未払い賃金の問題とそれを解決した実践などが目立って多くありました。「基本的人権を保障する入管法改正と労働基本権の確立を！」の方針が重要であることが確認されたと思います。それは、会計年度任用職員の待遇改善にも



大阪での動き

おおさかユニオンネットワークは、3月24日（金）に春季大阪総行動（春闘総行動）を予定しています。

私たちも、10:00に梅田地下街「泉の広場」に集合し、天六ユニオン、全日建関生支部、なかまユニオン、ケアワーカーズユニオンなどが呼びかける行動に合流します。教育合同が呼びかけている、

15:00からの大阪府教委（府庁別館）前の講師雇用継続闘争も、この総行動の最後に位置づけられているので、組合員の参加を呼びかけます。

増田俊道（執行委員長）

文化おちこち (254) 違ったまんまで一緒に生きよう (5) 【こども支援の広がり】

2013年に始まったこども教室も11年目に入りました。当初小学生だったこども達も成長し、二十歳を迎える子もでてきました。支援も時間軸に沿って広がっています。今では高校や専門学校との連携や就労支援、行政機関同行支援なども始まりました。

【こども支援から大人の支援へ】

子どもの安定した生活は保護者のことを抜きにしては成り立ちません。コロナ禍で飲食業やホテル業は大きな打撃を受けましたが、そこで労働している外国ルーツの人々への影響も大きなものでした。行政の施策が届きにくい層です。

例えば2020年の特別定額給付金の手続きです。区役所からの説明文には日本語しか書いていません。日本語の読み書きができない人は申請できないシステムです。給付金は正しく記入し、

本人確認書類をつけて申請しないと受け取れません。

こども教室では社会福祉協議会などと協力して多数の方の申請支援をしました。

【行政の変化】

家にはDMを含め様々な郵便物が届きますが、そもそもどれが大切な物かを判断するのが難しいです。一方行政の対応がよくなったり、23年度の雇用継続について何らかの回答、見通しが伝えられています。

一方、教育現場で働く講師、臨時職員、非常勤講師については他の職場と比べ、制度変更による余波は伝わってきません。そもそも、教員免許が必要とする職種では求職者が少なく、特にコマ払いと改悪された非常勤講師の職では生計が立てられないなど、教育

Macheck

23年度講師雇用継続闘争

今年もまた講師・臨時職員雇用継続闘争が佳境を迎えており、大阪府を除く各支部では市教委との交渉、折衝等がもたれ、23年度の雇用継続について何らかの回答、見通しが伝えられています。

20年度に会計年度任用職員という位置づけが導入されたことに伴い、3年目を目処に行われようとする公募によって、大量の会計年度任用職員の首切りが始まると危惧されています。

一方、教育現場で働く講師、臨時職員、非常勤講師については他の職場と比べ、制度変更による余波は伝わってきません。そもそも、教員免許が必要とする職種では求職者が少なく、特にコマ払いと改悪された非常勤講師の職では生計が立てられないなど、教育

現場独自の問題も山積みです。さらに、長年働き続けてきても一年ごとの任用であるとして、年度末に常に不安定な立場に立たされ続けている構図にはなんら変化はありません。

組合はこのような公務現場で働く「非正規」労働者の日々の悩みに寄り添い、そして最も重要な次年度の雇用について、当局の使用者責任を追及しています。増え続け、使い捨てられる一方の「非正規」労働者の権利を確立するためには、声をあげる人たちの結集が必要です。今年も残念ながら不誠実な姿勢に終始する大阪府・大阪府教育委員会に対して抗議の声をあげていきましょう。ぜひ、みんなの声を届けましょう

酒井さとえ（書記長）



竹下内閣(1987)から村山内閣(1995)までの官房副長官(官僚のトップ)を務めた石原信雄氏(1926~2023)
▼バブル崩壊による経済悪化の立て直しを目論んで世界都市博を誘致した鈴木前都知事の後継

者として1995年の都知事選に立候補▼結果は都市博中止を唯一の争点とした青島幸男に大敗▼28年後、大阪経済の立て直しとカジノ誘致の露払いを目論んで維新が誘致した大阪万博に反対する大阪府/市長選候補者はいない。